

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワークⅡ (4単位)		3. 科目番号	SPMP2156
2. 授業担当教員	三田 真外			
4. 授業形態	講義、グループディスカッション、発表、ロールプレイ		5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>ソーシャルワークⅡは、ソーシャルワークⅠで学習したソーシャルワークの基本的考え方、専門職倫理などを前提として、個人、家族、集団、また地域社会といったクライアント・システムに対し、社会福祉士がソーシャルワーカーとして提供する専門知識と技術について学んでいく。</p> <p>特に、分野を問わずソーシャルワーク実践に不可欠なソーシャルワークプロセス（相談援助の展開過程）についての理解促進を軸に、その過程において必要とされる面接技術や記録技術、アウトリーチや交渉といった専門知識と技術について学習する。なお、本講義は社会福祉士国家試験の「相談援助の理論と方法」に該当する科目である。</p>			
8. 学習目標	<p>下記の目標を達成することが期待される</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「相談援助」について理解を深めるとともに、その構造と機能について理解する。 2. 人と環境の相互作用について理解する。 3. 相談援助における援助関係について理解する。 4. 相談援助の展開過程において、各過程の目的、方法（技術）について理解する。 5. アウトリーチの目的、方法について理解する。 6. 相談援助における面接技術について理解する。 7. 相談援助における記録技術について理解する。 8. 相談援助における交渉技術について理解する。 			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>レポート課題 (1500字以上) と確認テストを数回実施する。 ※レポートの作成方法・構成等の詳細については授業にて説明する。</p>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 社会福祉士養成講座編集委員会 『相談援助の理論と方法Ⅰ (新・社会福祉士養成講座7)』第3版、中央法規出版、2015。</p>			
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8つの目標について理解し、説明することができたか。(知識・理解) ・8つの目標について思考し、考察を深めることができたか。(思考・判断・実践) ・8つの目標について関心を深め、意欲的に取り組むことができたか。(関心・意欲・態度) <p>○評定の方法 レポート課題 (25%) 定期試験 (50%)、受講態度 (25%) による総合的評価</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<p>この授業は、相談援助の理解に必要なクライアント・システムやネットワーク、相談援助の過程を体系的に身につけることを目的としています。具体的には、クライアントの見方、アセスメントの方法や支援計画の立案、評価および修正までの流れを把握し、実践の場で応用でき、利用者1人ひとりについて判断できるようになることを目的とするものです。本授業を通して、実習や演習につなげられるように学んで欲しいと思っています。</p> <p>①遅刻、欠席の無いようにすること。やむを得ず欠席する(した)場合は書面で教員に届け出ること。 ②レポートの提出期限を遵守すること。提出期限後の提出は減点の対象となる。 ③私語や居眠り、学習テーマ以外の作業、携帯電話の使用、その他授業を妨げる行為を禁止する。違反者は受講態度で減点の対象となる。</p>			
13. オフィスアワー	初回の講義で発表する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容	学習課題		
第1回	オリエンテーション シラバス、講義概要、試験・レポート課題についての説明	事前学習	シラバスを持参する。事前に講義概要、シラバスについて目を通しておく。	
		事後学習	ソーシャルワークⅡのねらいについて講義用ノートにまとめる。	
第2回	相談援助とは ソーシャルワークの定義	事前学習	教科書のpp. 1～26を読んでくること。	
		事後学習	ソーシャルワークの定義についてまとめる。 ソーシャルワークの方法・技能について、講義の要点をノートにまとめる。	
第3回	相談援助の構造と機能 (1) 人・家族・組織・地域社会の理解	事前学習	教科書のpp. 28～43を読んでくること。	
		事後学習	社会資源の枠組みについて、講義の要点をノートにまとめる。	
第4回	相談援助の構造と機能 (2) ソーシャルワークの枠組み	事前学習	教科書のpp. 44～51を読んでくること。	
		事後学習	ソーシャルワークの機能について、講義の要点をノートにまとめる。	
第5回	人と環境との交互作用 (1) 相互作用と交互作用の理解	事前学習	教科書のpp. 54～58を読んでくること。	
		事後学習	人にとって環境について、講義の要点をノートにまとめる。	

第6回	人と環境との交互作用(2) システム理論の理解	事前学習	教科書の pp. 58~67 を読んでくること。
		事後学習	システム理論からのソーシャルワークについて、講義の要点をノートにまとめる。
第7回	相談援助における援助関係(1) ソーシャルワーク実践領域	事前学習	教科書の pp. 70~80 を読んでくること。
		事後学習	ソーシャルワークと社会福祉の3次元について、講義の要点をノートにまとめる。
第8回	相談援助における援助関係(2) 援助関係と自己覚知	事前学習	教科書の pp. 81~93 を読んでくること。
		事後学習	援助関係の効用と限界について、講義の要点をノートにまとめる。
第9回	中間まとめ1 確認テスト・グループディスカッション	事前学習	第1回から第8回までの講義要点の再確認をしておくこと。
		事後学習	ここまでの講義内容を整理し、理解を深めること。
第10回	相談援助の展開過程I(1) インテーク	事前学習	教科書の pp. 96~121 を読んでくること。
		事後学習	二つの不安について、講義の要点をノートにまとめる。
第11回	相談援助の展開過程I(2) アセスメント・プランニング	事前学習	教科書の pp. 122~136 を読んでくること。
		事後学習	ニーズの確定と支援計画について、講義の要点をノートにまとめる。
第12回	相談援助の展開過程II(1) 介入・モニタリング	事前学習	教科書の pp. 138~145 を熟読し、モニタリングについて理解する。
		事後学習	再アセスメントについて、講義の要点をノートにまとめる。
第13回	相談援助の展開過程II(2) 終結	事前学習	教科書の pp. 146~153 を読んでくること。
		事後学習	予防的対応について、講義の要点をノートにまとめる。
第14回	アウトリーチの意義と目的	事前学習	教科書の pp. 156~160 を読んでくること。
		事後学習	アウトリーチの機能について、講義の要点をノートにまとめる。
第15回	アウトリーチの方法と留意点	事前学習	教科書の pp. 161~165 を読んでくること。
		事後学習	アウトリーチを行うための留意点について、講義の要点をノートにまとめる。
第16回	中間まとめ2 確認テスト・グループディスカッション	事前学習	第9回から第15回までの講義要点の再確認をしておくこと。
		事後学習	ここまでの講義内容を整理し、理解を深めること。
第17回	契約の意義と目的	事前学習	教科書の pp. 168~172 を読んでくること。
		事後学習	ソーシャルワークにおける契約の意義について、講義の要点をノートにまとめる。
第18回	契約の方法と留意点	事前学習	教科書の pp. 173~179 を読んでくること。
		事後学習	事例に基づいて文書による契約書の留意点について、講義の要点をノートにまとめる。
第19回	相談援助のためのアセスメントの技術(1) 援助的関係	事前学習	教科書の pp. 182~188 を読んでくること。
		事後学習	アセスメント面接における言語反応について、講義の要点をノートにまとめる。
第20回	相談援助のためのアセスメントの技術(2) ジェネラリストソーシャルワーク	事前学習	教科書の pp. 189~204 を読んでくること。
		事後学習	アセスメントで得るべき情報について、講義の要点をノートにまとめる。
第21回	介入の意義と目的	事前学習	教科書の pp. 206~212 を読んでくること。
		事後学習	介入のターゲットについて、講義の要点をノートにまとめる。

第22回	介入の方法と留意点	事前学習	教科書の pp. 213～221 を読んでくること。
		事後学習	介入の技術や技法について、講義の要点をノートにまとめる。
第23回	相談援助のための経過観察（1） 再アセスメント、効果測定、評価の技術	事前学習	教科書の pp. 224～238 を読んでくること。
		事後学習	再アセスメントの手順について、講義の要点をノートにまとめる。
第24回	相談援助のための経過観察（2） 再アセスメント、効果測定、評価の技術	事前学習	教科書の pp. 239～248 を読んでくること。
		事後学習	サービス開発について、講義の要点をノートにまとめる。
第25回	相談援助のための面接・記録・交渉の技術（1） 面接の目的と展開	事前学習	教科書の pp. 250～260 を読んでくること。
		事後学習	面接においてワーカーが行うことについて、講義の要点をノートにまとめる。
第26回	相談援助のための面接・記録・交渉の技術（2） 面接におけるコミュニケーション	事前学習	教科書の pp. 261～268 を読んでくること。
		事後学習	面接の技術について、講義の要点をノートにまとめる。
第27回	相談援助のための面接・記録・交渉の技術（3） 記録の意義と活用目的	事前学習	教科書の pp. 270～283 を読んでくること。
		事後学習	記録業務の4つのステップについて、講義の要点をノートにまとめる。
第28回	相談援助のための面接・記録・交渉の技術（4） 記録と倫理的配慮	事前学習	教科書の pp. 284～293 を読んでくること。
		事後学習	記録の方法について、講義の要点をノートにまとめる。
第29回	相談援助のための面接・記録・交渉の技術（5） 交渉の目的と留意点	事前学習	教科書の pp. 296～315 を読んでくること。
		事後学習	他機関との交渉について、講義の要点をノートにまとめる。
第30回	まとめ	事前学習	第16回から第30回までの講義要点の再確認をしておくこと。
		事後学習	これまでの講義内容を整理し、理解を深めること。
期末試験			